

# 令和2年度地震・津波防災訓練 (内閣府・沖縄県宜野座村・同漢那区)

## 実施報告書 (概要版)

### 沖縄県宜野座村漢那区について

宜野座村は沖縄本島の北部と中南部を結ぶ中間に位置し、今回訓練を実施した漢那区はその西部となる。漢那区は北側が山地、南側が平地となっており、漢那福地川が流れている。また、区内には漢那ダムが存在し、南側の集落部は海岸線に面し、道の駅「ぎのぎ」や民間宿泊施設が整備されている。

区は過去にチリ地震等で被害を受けている他、沖縄本島南東沖地震をはじめとした地震や津波が想定されている。

コロナウイルスの感染収束後に、自主防災組織主体による全区民を対象とした訓練の企画運営を行うことを目標とし、自主防災組織リーダー層を対象とした訓練を実施した。

訓練では、地域の危険性や自主防災組織の今後の活動に向けての課題等の気づきを得た。



地図出典：国土地理院

## 訓練概要

- 訓練想定：漢那区においては、集落が海岸線に面した平野部に形成されており、地震発生から約20分後には津波が到達、集落部が広く浸水する可能性が示されていることから地元住民だけでなく、観光客も含めた避難のあり方の検討が求められる中、集落内部を中心とした「まちあるき」で見つけた危険箇所に着目した「避難路の検討」等を行った。
- 実施日時：令和3年2月28日（日）9：00～16：00  
（訓練後ワークショップ：令和3年3月17日（水））
- 実施地区：宜野座村漢那区
- 主催：宜野座村、漢那区自主防災組織、内閣府
- 参加者数：34名
- 参加機関：宜野座村、漢那区自主防災組織

## 訓練の評価

訓練当日は天候にも恵まれ、漢那区自主防災組織等の34名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や津波避難訓練の参考となるよう「得られた成果と対策案」を整理した。

### 【得られた成果】

- まちあるきや避難路検討においてこれまで気づいていなかった地域の危険性や避難時の注意点について認識することができた。
- 有識者講演会やその後のワークショップを通じて、自主防災組織の活動について再確認できたとともに、今後の活動に向けた課題や目標を改めて共有することができた。
- 避難所生活体験を実施し、避難所での生活や要配慮者への対応等の必要性を認識し、備蓄等平時からの備えの重要性について理解を深めることができた。

### 【今後の対策案】

- 新型コロナウイルス感染防止対策として時間や参加人数に制限を設けた中での訓練実施だったので、次年度以降は区民全体を対象とした訓練を自主防災組織が主体となり継続的に実施することが望まれる。
- 大人数の食事を用意する炊き出し訓練、夜間の発災を想定した避難訓練の実施、観光客や独居老人等の要配慮者、区内に居住する外国人への対応など、参加者からは今後の訓練で検証を行いたい内容や対応策の検討が必要な区の課題が挙げられた。今後、地区防災計画の検討と併せ、自主防災組織と地区住民とが一体となって地域の防災ルールづくりを進めることが望まれる。

訓練内容

9:00～ まちあるき・避難経路等の検討

集落内部を4班に分かれてまちあるきを実施した。その後確認した危険箇所や注目したポイントを共有しながら地図上で整理し、避難経路や地域の避難ルールの検討を行った。

▼まちあるき



▼避難経路等の検討



10:50～ 有識者講演会、ワークショップ

漢那区公民館にて、常葉大学の河本尋子先生より「自主防災組織の役割」と題し講演をいただいた。講演の内容を踏まえ、自主防災組織の班毎に、地域の特性や課題について議論し、活動上の課題と今後取り組みたい内容についてワークショップ形式で検討を行った。

▼河本先生講演会



▼ワークショップの様子



12:30～ 炊き出し訓練、避難所生活体験

村職員より、備蓄状況について報告を行った。参加者は災害時の食事体験として、お湯（水）を注ぐだけで食べることができるアルファ米を昼食として実食した。

避難所生活体験として「段ボールベッド設営訓練」では劣悪になりがちな避難所生活環境を自ら整備・向上できることを知ることができた。「水の無い避難生活体験」では水がない状況でも使用できる簡易トイレ等の防災グッズを用いて衛生環境を維持できることを学んだ。「高齢者疑似体験」では配所の必要性や住民同士の共助の大切さを学ぶことができた。

また、今回参加できなかった住民への指導を自主防災組織が行うことを想定し、指導内容や方法、今回の体験に伴い伝えるべき周辺情報について確認した。

▼避難者生活体験の様子



令和3年3月17日 訓練後ワークショップ

訓練当日を振り返り、地区としてこれまで想定してきた津波避難方法の新たな課題を共有、来年度以降の訓練に活かすこととした。

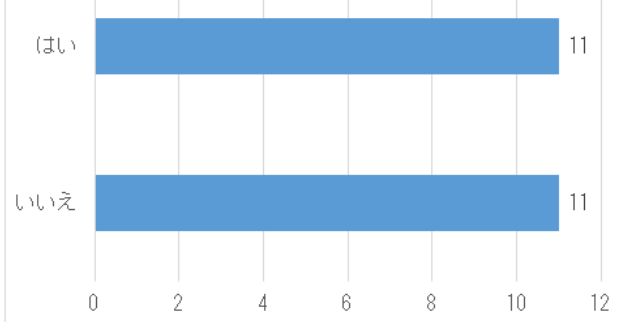
▼事後ワークショップ



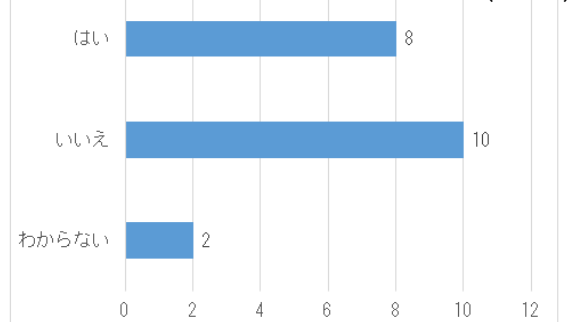
アンケート結果

参加した区民に、防災意識や今回明らかになった課題等を把握するため、アンケート調査を実施した。

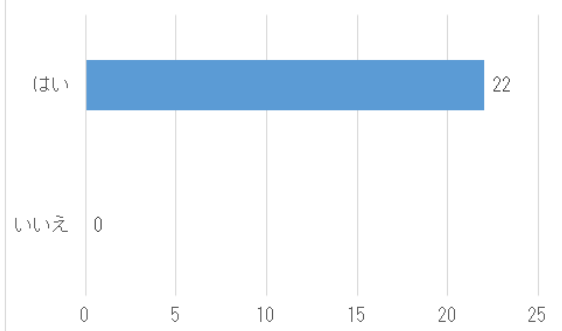
まちあるきについて過去に参加したことがありますか。  
(n=22)



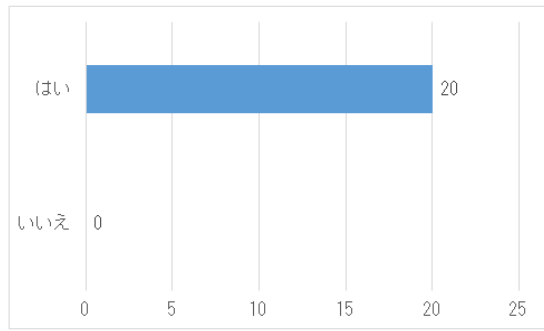
災害時近所での助け合いの方法を決めていますか。  
(n=20)



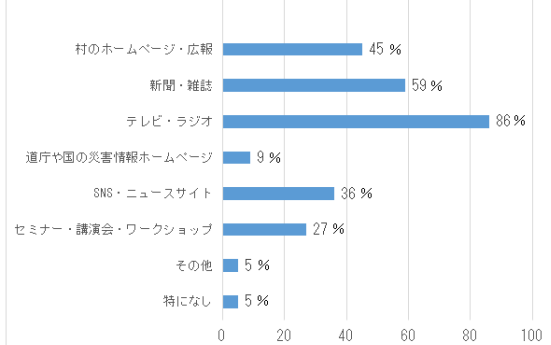
まちあるきで危険性を見つけることはできましたか。  
(n=22)



避難所生活体験は今後の活動を検討する上で有意義でしたか。  
(n=20)



日頃、防災に関する情報・知識をどこから集めていますか。  
(n=22・複数回答)



【自由意見】

- 道幅が狭く、ブロック塀やマンホールが多く、避難の際、支障が出るものが多いと感じた。
- 少しでもストレスのかからない生活ができるよう衛生面やプライバシー等工夫した運営方法を検討する必要があると思った。
- 意義を高めるため定期的に訓練やワークショップを実施した方がよい。